

令和6年度 第1学年 授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心とする単元 ◆カリキュラムデザイン	授業改善に向けての具体的な手立て	◎ 成果 ● 課題
知識・技能	<p>&lt;国語&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡文字になってしまい、平仮名の清音50音を正しく書けない児童が数名いる。</li> <li>拗促音、助詞「は」「へ」「を」の使い方を正しく理解して文章を書くことが難しい児童が多い。</li> </ul>	<p>&lt;国語&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「かたかなのことば」</li> <li>○「たのしかったことをかこう」</li> <li>○「ぶんでつたえよう」</li> </ul>	<p>繰り返しの学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルなどを繰り返し活用し、様々な言語表現を習熟する。</li> </ul> <p>音節の意識付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章中で拗音を一文字として意識させるために、手拍子を打ちながら読むことで、体感を通して拍数の違いに気付かせる。</li> </ul> <p>作文活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あのねノート」に、伝えたい出来事や思ったことを作文する。作文活動を通し、正しい句読点の打ち方や正しい助詞の使い方、主語述語の正しい対応について練習していく。</li> </ul>	
思考力・判断力・表現力等	<p>&lt;全教科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意味の通る文章で問題文を書くことが、苦手な児童が多い。</li> <li>学習活動を通してもった自分の考え、思いや願いを自分の言葉や表現方法で表すことに、苦手さを感じている児童が何名かいる。</li> </ul>	<p>&lt;算数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「たしざん」「ひきざん」</li> </ul> <p>&lt;生活科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたしのはなをそだてよう」</li> <li>○「あきとなかよし」</li> </ul>	<p>具体物の操作による、加減の意味理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あわせて」「ちがいは」等の加減を表す言葉に着目し、ブロックなどを問題場面のおりに操作することで数の増減イメージを促し、適切にそれらの言葉が使えるようにする。</li> </ul> <p>視点の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察やインタビューの視点を教師が示したり、視点のポイントを書いたヒントカードを参考にしたりして、「みつけたよ」カードに気付きを記録できるようにしたり、視点につながる声掛け支援を行ったりする。</li> </ul>	
学びに向かう力・人間性等	<p>&lt;全教科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で学んだことを基にして、自分の学習課題を見出すことや、課題解決のためのめあてを立てることが、難しい。</li> </ul>	<p>&lt;生活科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆もうすぐ2年生</li> </ul> <p>&lt;図画工作&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ようこそあたらしい1ねんせい</li> </ul>	<p>振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期にわたる自己の変容を具体的に捉える手がかりとして、行事などの写真や動画、過去の学習中での児童の発言、記録カードや作品等を活用しながら、振り返りの助言をする。</li> </ul>	